

在学生と保護者の
皆様へ

College of International Relations/Junior College (Mishima Campus)
Nihon University

令和5年3月発行 年2回発行
日本大学国際関係学部・短期大学部（三島校舎）広報誌

Campus Life

No.181 2023.3



本校舎から見える夕暮れ



本館屋上からの富士山



令和5年2月6日伊豆半島学外研修。1～4年生までの希望した18名が参加。伊豆半島の観光の学びを目的に、ジオパーク見学、特急サフィール踊り子乗車、伊豆急行本社講義などを実施。学生からの事前質問に丁寧に回答してくださった伊豆箱根バスのドライバーさん・ガイドさんと（浄蓮の滝にて）。

日本大学 国際関係学部・短期大学部（三島校舎）
静岡県三島市文教町2-31-145 日本大学国際関係学部 広報委員会
<http://www.ir.nihon-u.ac.jp>



日本大学国際関係学部長

渡邊 武一郎

令和4年度も残すところ僅かとなりました。学生の皆さんは、この一年間をどのように過ごしたでしょうか？

3年前に始まった新型コロナウイルスへの対応も、一時的と思っていたものが、いつの間にか当たり前の日常になってしまいました。人類の歴史は疫病との戦いの歴史とも言われています。20世紀初頭には全世界

でスペイン風邪が流行し、世界人口のおよそ三分の一が感染し1億人以上の死者が出たとされています。更に時間を遡れば数度にわたるペストの流行もありました。日本でも過去数度にわたり疫病が流行し、多くの人々の命が奪われました。その都度、人々は生活様式を変え、衛生観を築き、科学の進歩も伴って危機を乗り越えてきました。今回のマスクの着用とワクチン接種は、新しい常識となりつつあります。

これらの人類の経験に共通するのは免疫力の強化という思想かと思います。そもそも人類は生まれながら免疫を備えています。様々な形でその力が脅かされます。それでは一体、免疫・免疫力とは何でしょうか？免疫・免疫力とは、簡単に言えば自分と自分以外（他者）を認識し、非自己である病原体等を認識の上、攻撃・排除すること（力）と言えるでしょう。つまり我々は細胞レベルでも自分と他者を認識し、自分に干渉しようとするモノを攻撃し排除する生き物と言えるでしょう。つまり我々は自分という個を守ろうとする為に免疫を備えているわけです。しかし、一方で私たちは誰も皆、独りでは生きていけません。我々人類は、その誕生から群れで生きる動物でした。産まれて間もない赤ちゃんは、自分で立つことも食料を獲得することもできず、お母さんのおっぱいを貰ってのみ命を繋ぐことができます。ここに個と集団として矛盾が生じます。我々は免疫により個を確立しつつ群れとして生きています。美白に勤しみ美しい白い肌を誇れるのは、免疫レベルでの外から干渉するモノに対して徹底的に攻撃し排除した結果かも知れません。

学生の皆さんの日常も、家族、授業、アルバイトなど、様々な群れに所属しています。それと同時に、独りの人間としての個も確立しなければなりません。個と群れという矛盾の間に身を置き、本能のみでなく意思と思考によって生きている我々は、まさしく人間ということかと思います。皆さんには間を大切に困難に負けず実りある学生生活を過ごして欲しいと思います。

令和5年度前学期スケジュール

4/3～4/5
健康診断・
ガイダンス期間

4/4 開講式

4/6 前学期授業開始

7/7 到達度確認期間
(14・15週目)

7/26 前学期授業終了

7/27～7/28
定期試験(諸課程)

7/29 夏季休暇開始

8/24～8/25
追試験

9/14 夏季休暇終了

9/15 後学期授業開始

令和5年度 授業実施方針

●国際関係学部・短期大学部(三島校舎)

令和5年度授業実施方針は新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、国際関係学部4年次必修科目である「ライフデザイン」を除くすべての科目について、対面授業を実施します。ただし、感染状況が著しく悪化した場合や、今後の行政機関の要請等により変更する場合があります。

保健室・学生支援室より

春になり環境が変わる方も多いのではないのでしょうか。良い変化だったとしても、環境の変化はストレスになりやすいものです。オンライン授業がなくなり対面授業となるなど、コロナ禍で人との関わりが減っていた状況が改善されてきています。良いことである反面、ストレスを感じる方もいらっしゃるでしょう。変化によりバランスを崩しやすい季節ですから、心身の養生が大切になってきます。

自分のエネルギーがたまること、例えば好きな音楽や入浴、大好きな人やペットと一緒に過ごすなど楽しんだり、リラックス出来る時間を持ちましょう。

また、どなたにも良いと言えるものは運動です。

心療内科でよく処方される抗うつ薬は、セロトニンという幸せや安心を感じるホルモンをリサイクルする形で脳内の濃度を上げるのです。

セロトニンはもともと体の中で自分で作っているもので、リサイクル品より新たに作ったフレッシュなセロトニンの方がもちろん良いのです。では、セロトニンはどうやって作られるかというと、タンパク質とビタミンB群を材料として、運動すると腸内で作られます。

つまり、タンパク質やビタミンB群がたくさん摂れるお肉、魚介類、乳製品、大豆製品をたっぷり食べて、運動することが大切です。

また、セロトニンは腸で作られるので、腸内環境を良くすることも大切です。便秘や腸内細菌の乱れはセロトニン産生を減

らしてしまいます。悪玉菌の代表はカビの一種のカンジダですが、カンジダの主食は炭水化物です。つまり炭水化物の割合が多い食事をしていると悪玉菌が増えてセロトニンが作られにくくなってしまいます。そして、運動不足だと便秘にもなりやすくなってしまいます。

環境の変化があり運動不足になる方もいるかと思いますが、意識して運動していただくことは精神衛生上、とても有効なのです。

また、一人暮らしになり、簡単に食べられる炭水化物が多くタンパク質の少ない偏った食事になってしまうと、セロトニンが作られにくくなり、うつや不安、不眠(セロトニンから睡眠物質のメラトニンが作られます)を起こしやすくなってしまいます。体と心はつながっていますから、気持ちを整えるためには体を整えることも大切なのです。

そして、体を整える方が分かりやすく取り組みやすくもあります。心身の不調を感じたら、食事や運動も見直してください。そしてストレスを感じたり悩みがある時は、少し話しをするだけでもスッキリして気持ちが楽になることがあります。

そんな時は保健室や学生支援室でお話しをしてバランスを崩しやすいこの季節を乗り切っていただけたら幸いです。どうぞ気軽に来てくださいね。

国際関係学部担当 精神科医 粥川 美乃

【健康相談について】

保健室・学生支援室では、学生の皆さんが充実したキャンパスライフを送れるようにサポートを行っています。長引くコロナ禍で生活様式や取り巻く環境の変化により、眠れない、疲れが取れない、食欲がない、ストレスや不安を感じるなどの気になる症状や心配なことが続く場合は、一人で悩まずにいつでも相談してください。※学生に関する保護者からの相談も受け付けています。



予約制

からだの健康に関する相談

【学校医】毎月第1、3水曜日
15:00～16:00

予約制

こころの健康に関する相談

【精神科医】毎月2回
※日程等の詳細についてはUNIPAの
「学生課のお知らせ」を確認してください。

予約制

臨床心理士によるカウンセリング

火～金曜日
10:30～16:00

お問合せ

【保健室】本校舎12号館1階 電話：055-980-0851
三島駅北口校舎 電話：055-980-1925

【学生支援室】本校舎12号館1階(守衛室奥)
電話：055-980-0850

三島キャンパス 告知板

【保護者配信メール(さくら連絡網) 未登録者の皆様へ】

本学部では、さくら連絡網にご登録済みの保護者の皆様へ原則毎月一度、大学から情報を発信しております。ご登録いただきますとLINE等で情報を受け取ることが可能となります。未登録で新規登録をご希望の場合は、庶務課(電話 055-980-0801)へお問い合わせください。

▶配信内容例

「台風接近による荒天が予想されるので、
令和〇年〇月〇日の講義は休講します。」
「令和〇年〇月〇日に成績発送を行いますので、
ご確認をお願いします。」
「〇〇ガイダンスが
令和〇年〇月〇日に実施されます。」

第72回 富桜祭開催



学生生活委員会委員長

国際総合政策学科
鄭 勲燮 教授

第72回 富桜祭報告

令和4年10月29日(土)と30日(日)の二日間、国際関係学部及び短期大学部(三島校舎)の富桜祭(学部祭)が開催されました。

一昨年度と昨年度はオンラインでの開催でしたが、今年度の第72回富桜祭は3年ぶりに本来の対面式にて行われました。準備日、片付けの日を含めて富桜祭の全日程の四日間、大きなトラブルもなく、また晴天にも恵まれ、無事に終了することができました。二日間の入場者数は3,902人であり、多くの方が三島キャンパスに足を運んでくださいました。

今年度の富桜祭は、サークル等学生団体によるステージイベント及び館内展示、様々なゼミナールによる研究発表及び活動の紹介、学部祭の目玉とも言える模擬店等が実施されました。また、あわしまリパークふれあい水族館、静岡県警察音楽隊の演奏や警察車両展示、自衛隊車両展示、三島の伝統芸能「しゃぎり」演舞等、多くの外部の方々にもご参加をいただきました。いずれの催しもとても見ごたえがあり、ご来場の方々には、きっと素敵な思い出となったのではないのでしょうか。

今年度の富桜祭実行委員会の学生たちは、対面開催の経験のない状態で学部祭を実施しました。準備の過程では様々な場面で苦労されたこともありましたが、富桜祭当日までお互い協力し、一生懸命取り組んでくれたおかげで、無事祭典を終えることができたと思います。富桜祭実行委員会の学生の皆さん、本当にお疲れ様でした！

国際関係学部及び短期大学部(三島校舎)では、年間、様々な学生関連のイベントが開催されますが、富桜祭は最大規模の学生行事であります。来年度の富桜祭は10月28日(土)と29日(日)に実施の予定です。三島キャンパスの学生がより良い学生生活を送れるよう、学生生活委員会・学生課の教職員一同、これからも学生へのサポートに力を注いでいきたいと思っています。保護者の皆様方におかれましては、今後とも富桜祭へのご声援、ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



富桜祭実行委員会
委員長から

国際総合政策学科3年
茂野 友哉 さん

本年度、第72回富桜祭を10月29日、30日に対面にて開催いたしました。

富桜祭はオンラインを2年連続で開催したことで、全学部で唯一コロナ禍でも学部祭を中止せず、本年度まで引き継いできた学部祭となりました。このことから「何としてでも富桜祭を復活させ、後世に継ぎたい」「皆で同じものを作り上げる機会が減ってしまった大学生に、その楽しさをもう一度体感してほしい」という思いでテーマを「REBIRTH—呼び覚ませ、あのときめきをもう一度—」と設定しました。このテーマのもと、三島お寺めぐりの会による写経体験、大宮町三丁目自治会によるしゃぎり演奏、自衛隊企画などの例年の企画を引き継ぐとともに、静岡県警察のプロによる音楽隊演奏・子供たちに大人気の警察・自衛隊車両展示、アザラシやウミガメが訪れ幅広い年齢層のお客様にお楽しみいただいたあわしまリパークによる移動水族館といった新しい企画を織り交ぜ、承前啓後の富桜祭を創り上げました。芸能人企画、ミス・ミスターコンテストを撤廃し、野外ステージを建設しないなど、学部祭の概念を崩した富桜祭となりましたが、3年ぶりの対面開催にも関わらず約4,000名のお客様にお越しいただきました。

先輩の引継ぎも自身の富桜祭に対する知識もない、実行委員会メンバーの減員やコロナという弊害。厳しい条件下での富桜祭の運営は、決して簡単なことではありませんでした。私はこの条件でも開催を実現できたことで、過去の自分にはなかった忍耐力と決断力を身に付けることができました。そして皆で本気を出して一つのものを完成させる達成感は何ものにも代えがたく、皆を信じ続け、最後まで尽力することの重要性を学ぶことができました。

私は後世に富桜祭を継ぐという一心で運営に携わってきました。この想いに最後まで寄り添ってくださった教職員の方々、外部関係者の方々、そして実行委員会の仲間たちに心から感謝申し上げます。今後とも、日本大学国際関係学部の富桜祭をよろしく願いいたします。

ふれあい水族館のアザラシ



富桜祭実行委員会集合写真

静岡県警察音楽隊による演奏



飲食出展団体への衛生講習会

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら国際関係学部、短期大学部（三島校舎）ともに原則対面授業を実施いたしました。なお、対面授業に出席できない学生に対してはオンデマンド授業資料を配信し、ハイブリッドでの授業を実施しました。本ページでは、令和4年度の講義紹介、令和5年度に向けた授業方法について紹介いたします。

講義紹介 国際関係学部 国際総合政策学科

国際総合政策学科

助教 永井雄一郎

（主な担当科目：国際関係論Ⅰ（理論））

コロナ禍でのキャンパス生活も3年となりました。依然として様々な制約も残る中ではありましたが、令和4年度は多くの授業で対面授業が実施され、キャンパスにもたくさんの学生の姿が戻ってきました。

私が担当した多くの授業でも、感染対策をとりながら、教室での対面授業を行うことができました。「国際関係論入門」や「国際関係論Ⅰ（理論）」などの授業では、最新の時事問題に触れたり、学生の反応も見ながら時には脱線して必要な補足説明を加えたり、対面授業の醍醐味も大切にしながら講義を進めてきました。ウクライナの問題もあってか、昨今の国際情勢に対する学生の関心も高く、講義に耳を傾けて真剣にノートをとる学生の姿が印象的でした。

また、1年次の必修科目である「自主創造の基礎」や「キャリアデザイン」の授業では、クラスの学生が毎回教室に集まってディスカッションやグループワークを行いました。オンラインで実施していた時と比べ、学生たちもお互いにすぐに打ち解けて、積極的にコミュニケーションを図っていたように思いま



す。大学は、学生の出会いの場であり、人間関係を築く場でもあるのだということを、学生も教員も改めて強く感じる事ができたのではないかと思います。

キャンパスにたくさんの学生がいて、教室で授業を行う。「あたりまえ」のここのように思いますが、その「あたりまえ」がコロナの影響でこれまで様々な制約を受けてきました。令和4年度は、それが少しずつキャンパスに戻り、学生とともに教室で授業ができる「あたりまえ」が実は尊いものなのだという事を強く実感できたように思います。この「あたりまえ」に感謝するとともに、学生の皆さんにも一日一日を大切に、新年度のキャンパスライフも存分に楽しんでいただければと思います。



対面授業「国際関係論Ⅰ（理論）」の様子

講義紹介 国際関係学部 国際教養学科

国際教養学科

教授 有木 永子

（主な担当科目：心理学）

総合教育科目の「心理学」は履修者数が多い科目の一つであり、コロナ禍ではオンライン授業となるクラスが大半でした。オンライン授業での大きな課題は、学生さんの学びをいかに深められるか、他者と意見をいかに交流させるかです。そのような中で、幸いにして対面授業となったクラスでは、ミニ実験やペアワークなどオンラインでは難しいリアルな人とのやり取りから学ぶ内容を盛り込みました。すると学生さんからは「へ～、そうなんだ」「え、なんで？」などなど、様々な声が届きました。こうした「ライブならではの」学びを私はとても重視しています。

心理学的には、感情を伴う記憶は定着しやすいことが知られています。同じ時空間で他者とともに何かを体験し意見を交わすと、他者のものの見方、感じ方、考え方に直接触られます。このような体験的な理解は、学生さんが理論を学ぶ上での橋渡しになると考えています。心理学は私たちの暮らしとつながりが深く、日常の至るところにそのタネが存在します。大学生は自分の軸を作り上げる青年期に当たります。対面授業ではたく



さんの具体例を紹介できるので、この大切な自分づくりの時間に、心理学の学びを通して視野の広がりや気づきを手に入れて欲しいと願っています。

令和5年度前学期からは、対面授業が全ての科目（「ライフデザイン」を除く）で実施されます。コロナ禍で私たちは動画教材から効率よく学ぶ方法を獲得したわけですから、そのスキルも活用しながら、対面授業で学び意味や価値を再確認してもらえたらと願っています。

暖かい春がやってきました。新年度、皆さんとともに学ぶことを心待ちにしています。



対面授業「心理学」の様子

学生の皆さんも保護者の皆さんも

大学生活の大きな関心事は将来のキャリア(就職)

このコーナーでは、大学4年生、短大2年生で全国のような分野への内定を勝ち取った方の手記をお知らせします。就職活動時「日本大学」は武器となります。しかし、大切なのは学生本人の夢（キャリアビジョン）や就活時の努力です。是非ご参考ください。

国際関係学部
国際総合政策学科4年

神田 啓太さん

内定先：日本電気(株)(NEC)

3年生の春から就職活動を開始し、情報を得るために業界・業種は絞らず説明会やインターンに参加しました。これが国際関係学部とは一見縁のないICT業界に出会ったきっかけでした。ゼミナールで流通における社会課題について研究していて、解決手段であるICTには興味がありましたが、NECの夏のインターンに参加した際に、ICTがもたらす社会価値創造の可能性に惹かれました。その後の面接やOB訪問など、社員の方とお話する機会を多くいただき、その中でNECを知ることだけでなく、自分が何をしたいのかをどの企業よりも明確にイメージすることができたことが入社を決め手でした。

就職活動ほど、様々な業界や企業について深く知る機会、自己分析をする時間を作ることができる期間は今後の人生で二度とありません。「企業分析」や「自己分析」以外にも面接練習などやることはたくさんありますが、悔いの無い就活をするためには、「自分が将来入る企業を知ること」、「自分が働く理由」この2つを固めることが大切だと思います。

就職活動は大変なこともありますが、挑戦と努力をした分だけ結果がついてくると思います。皆さんの就職活動がうまく行くように影ながら応援しています。



国際関係学部
国際総合政策学科4年

横田 桜さん

内定先：(株)クボタ

この世に、日本国内で全てが完結している業種はほとんど存在しません。

つまり国際関係学部で学んだことはあらゆる仕事で活かすことができます。皆さんの道は無限に存在しているのです。今まで学んだ中に、これなら人生をかけてもいいかなと思ったことはありましたか？

私には「世界の農業を変えたい！」という強い想いがあります。

幼い頃から農業を間近で見てきた経験と、国際関係学部で世界にとって農業がいかに大切かを学んだ経験がうまく混ざりあって動機になり、グローバルな農業課題を解決しているクボタを志望しました。せっかく入るなら世界120か国で業務展開、グループ従業員5万人超えの業界1位の会社が良いと思ったことも理由のひとつです。

大手企業は学歴フィルターがあり厳しいのではないかと落ち込むこともありましたが、絶対に入社するぞという強固な意思のもとに一念対策を積んで内定をいただきました。一貫性のある志望動機とガクチ力するために何度も自己分析をやり直して、実際に自分が働くイメージが固まるまで飽きるほど説明会や座談会に参加しました。

何があっても諦められないほどの強い熱意さえあれば、就活は絶対うまく行きます。まずはこれを読んだ今日から自己分析を始めましょう。



国際関係学部
国際教養学科4年

鈴木 颯人さん

内定先：神奈川県教育委員会(中学校教諭)

「人と人とが密に接し、教科の魅力や子どもたちの成長を後押しできる」教師という仕事に憧れを感じ、私は英語科教師を目指して本学部に入學しました。大学では、教職に関する知識を身に付ける中で、自身の目で現場を確かめるということを意識しました。そのため、積極的に実習や学校ボランティアの参加、小学校教員養成特別プログラム受講を行い、深い知識と実践を経験できました。また英語力の向上と異文化理解を高めるためにも、国際交流ボランティアの参加とオンライン英会話の挑戦によって、より深めました。

このように知識と実践の向上を両立したことによって教員採用試験では、自らの意見をより具体的に説明できたと思います。私は特に面接試験を重要視し、自身の経験や人柄を最大限に伝えられるように、伝え方の書籍や実践機会を増やし自信をつけました。加えて、大学の先生方をはじめ、友達や実習先の先生方といった幅広い立場の方々にみていただき、他者の評価というものも大切にしました。

これから就職活動を向かえる皆さんには、たとえ不安や緊張があったとしても一人で抱え込まずに行動してほしいと思います。そして、常に「目標に向かって最後までやり切る」ことを意識して、頑張ってください。応援しています。



国際関係学部
国際教養学科4年

高橋 正剛さん

内定先：東日本旅客鉄道(株)(JR 東日本)

私は、学生時代を通して日本国内を何度も旅行してきました。その際に、利用していた鉄道が交通インフラとして多くの人々の生活を支えている光景を目の当たりにしました。将来、自分がその立場になりたいと感じたのが鉄道業界を志したきっかけでした。また、大学ではゼミを中心に観光について学んでいたため、その知見が鉄道業界でも十分に活かせると考えました。JR東日本を選んだ理由としては、首都圏や東北などに渡る営業エリアの広さにあります。社会貢献性が高く、日本の価値づくりが行えるという自分の就活の軸にもとても当てはまっていました。

就職活動では、業界を絞ることが大切だと感じました。絞ることで徹底した企業研究や比較を行うことができ、集中して取り組むことが出来ました。さらに、私は3月に就活を始めて4月末に内々定という想像していたよりもとてもスピード感のある選考過程でした。短い期間で面接対策や選考試験対策をしていたため、業界を絞ったことはスケジュール的にもメリットとなりました。

後輩の皆さんには、就職活動に対して余裕をもって取り組んで欲しいと思います。日程的にも精神的にも、自分のペースで行うことが大事だと思います。応援しています。



短期大学部
ビジネス教養学科2年

東端 麗さん

内定先：株式会社スタイリッシュホーム

私が不動産の営業職に就職先を決定したのは、大学生のうちにしていたアルバイトがきっかけです。大学入学前は経理の仕事をしたと思っていたのですが、大学一年生で始めた塾の講師のアルバイトで自分の考えが大きく変わりました。私はもともとコミュニケーション能力が低く、説明などをするのが苦手だったのですが、自分の得意だった数学を中心に生徒に教えていく中で、物事を説明する力や、人に教える楽しさを知りました。そのことがきっかけで、経理の仕事よりも人とかかわっていきけるような仕事に就きたいと思い、営業職に絞って就活しました。私のように、入学前からの仕事に就きたいと決めている人もいるかと思いますが、視野を広くし、様々なことにチャレンジしていくことで、自分に合っている仕事が見つかるかもしれません。短期大学は二年間しかないの、とても忙しい毎日かと思いますが、勉強だけでなく、友達との交流や自分の興味のあることについてチャレンジしてみるなど、最後まで楽しいキャンパスライフを送ってほしいです。



短期大学部
食物栄養学科2年

木野 愛菜さん

内定先：フジ虎ノ門整形外科病院

私は健康に興味があり、健康には食生活が関係していると考えたため、栄養士として多くの方の食生活のサポートができる就職先を探しました。

また、栄養士として働くとともに、地元である静岡県内での就職を考えていたため、内定をいただいているフジ虎ノ門整形外科病院に出会うまでは、多くの栄養士の求人を見ました。なかなか見つけれず悩んでいる時には、先生方が親身になって就職先のことや面接時のアドバイス等について相談に乗ってくださいました。その相談を通して出会った病院で、面接を受ける前に一度見学に来てみてくださいとご連絡をいただいたため、病院内や調理室の見学に行きました。その時には、管理栄養士の方から仕事内容を聞いたり、気になることなどの質問をしたため、面接前にその病院について詳しく知ることができました。

短大は2年間と短いです。将来自分が何を目指したら良いのか分からないときは、1人で抱え込まずに誰かに相談すると明確になってくるものがあるかもしれません。ぜひ、学生生活を楽しみながら将来の夢の実現へ向かってがんばってください。



短期大学部
食物栄養専攻2年

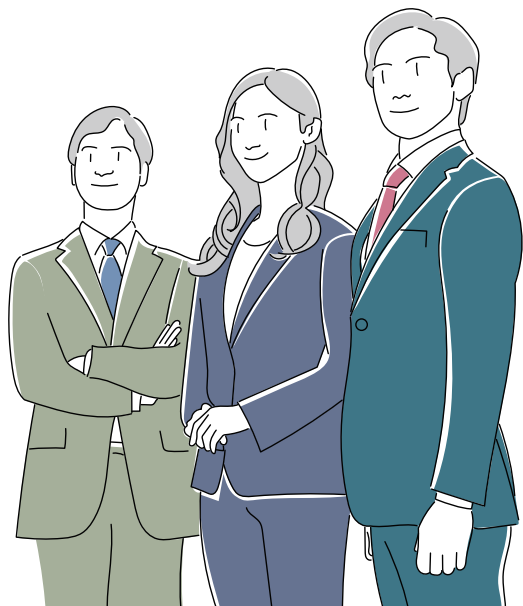
鈴木 光河さん

内定先：株式会社ヤクルト本社

私は幼少期のころから食に関心があり、将来は食に関係のある仕事に就きたいと思っていました。短大入学後も、将来は栄養士として働きながら、国家資格である管理栄養士を取得し、スキルアップをしていくつもりでした。しかし、専攻科に進学後、所属ゼミの先輩と話をすることで食品の製造や品質管理に興味を持ち、就職活動では主に食品の製造・品質管理の分野の企業を幅広く探しました。私は主にマイナビで就職活動を行っていましたが、なかなか思うようにはいかず、北口校舎にある就職指導課を頼りました。就職指導課では履歴書やエントリーシートの添削、模擬面接など手厚くサポートしていただき、とても助けられました。そこで出会ったのが現在内定をいただいている株式会社ヤクルト裾野工場でした。

私がこの会社を志望するに当たり、就職指導課の方々や先生方、またそこに就職しているゼミOBの方など多くの人にアドバイスをいただき、内定までたどり着くことができました。

こうして自分に合った会社に出会うことができたのは積極的に行動し、使えるものは使ったことで得た結果だと思います。先が見通せず不安な時期ですが、皆さんも自分がしたいことを明確にし、夢の実現に向けて積極的に頑張ってください。



在学生に読んでもらいたい本の紹介



国際総合政策学科

鈴木 和信 教授

(主な担当科目：国際協力論)

本書は、水俣で生まれた「地元学」を紹介するものです。地元学は水俣病で疲弊した町の再生の取組から生まれました。水俣の人たちは、「自分が変われば世の中が変わる」と信じ、身の回りのあるもの探しを始めます。時に、「地方＝何もない」という印象を持つことがあるかもしれませんが、「何もないところから新しいものは生まれない。新しいものとは、あるものとあるものの新しい組み合わせである」という考えのもと、「何もない」とは絶対に言わず、地元「あるもの」を見直し、水俣病で壊れてしまった人々の絆を結び直す「もやい直し」という活動を実践します。

大量生産、大量消費の行き詰まりは「元気

がない」地域を生み出してしまったと思います。しかし、地方には、固有の自然があり、地域に密着した生業があり、地域の存在価値はそこに住んでいる人々の長期間に及ぶ様々な絶えざる働きかけによって蓄積されています。地元学は、問題解決から価値創造型のものづくり、そこに住む人の個性こそ最大の価値、自分と地域を知ることが持続可能な社会には不可欠である、といったことを教えてくれます。「元気な社会」の構築を担うであろう多くの学生さんに是非読んで欲しいと思います。



吉本 哲郎 著

『地元学をはじめよう』

岩波書店 (2008 年)

ISBN 978-4-00-500609-0

価格 858 円 (税込)



図書館事務課

坂内 好世 課員

カズオ・イシグロは2017年、長崎出身であることからノーベル文学賞受賞が日本でも大きなニュースとなったイギリスの現代作家です。

著者の三村尚央氏は、20世紀イギリス文学の研究者であり、本書はカズオ・イシグロの作品を作品編とモチーフ(キーワード)編とに分けて丁寧に解説・分析しています。「幽霊」「動物」「乗物」「家」「水」等、キーワードからの分析には、読んだことのある作品が登場すると思わず引き込まれてしまいます。

長編小説を敬遠したくなる気持ちを軽くしてくれる作品案内にもなっているため、今まで

にイシグロ作品を読んだことがある人には、三村氏の作品分析を読みながら、自身の感想・分析との比較など、二度読みのような楽しさも味わえます。まだ作品を読んだことがない人には、興味のあるところから読んでみても面白いと思います。



三村 尚央 著

『カズオ・イシグロを読む』

水声社 (2022 年)

ISBN 978-4-8010-0680-5

価格 2,420 円 (税込)